



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 10 No. 3 2009年 9月

鷺の宮卓話

所長 太田敬雄

若いころは大病には縁のなかった私も、振り返って見ると、ここ10年ほどの間に徐々に新しい病を得、同時に葉の数も段々と増えてきている。自慢だった視力・聴力も落ち、教室内での学生のささやき声も聞き取れなくなって来た。昔は聞こうとしなくても学生のひそひそ話が困るほど聞き取れていたものだったが、いまでは味覚も、触覚も、バランス感覚も共に確実に衰えてきている。

そんな状態の中で、私は改めて命の意味を考えさせられている。若い頃には「生きる」ということは当たり前なことではなかったように思う。しかし今は違う。今は昔と比べれば命そのものと真正面から向き合っている充実感がある。生かされていることを大きな恵みであると考えられるようになってきている。これも病のおかげだろう。そういう命。本当に大切だと思う。誰にも命をおろそかにしたりしてはほしくない。

ただし、決して「命が何よりも大切だから、兎に角長生きをするように生きる」という意味ではない。逆に、限りある命だから、何のために、どんな大切なことのために自分は生きており、生かされているのかを考える。今日を、今をどう過ごせばその大切なことのために生きることができるかが、第一の課題になってきている。

愛する者、次の時代を継ぐべき若い世代、この地球に平和な将来をもたらす活動。それらのためにこの命を役立てることが出来るなら、こんなに幸せなことはないだろう。この思いを片時も忘れることが無いように、これからの日々を生きていきたいと願う。

何が大切なのか、それは当然人によって異なるだろう。しかし、大切だったはずのものが、いつの間にかそれ以外の何かに置き換えられていく様子を、私は沢山見てきた。例えば、子供が大切なばかりに、子供を守り過ぎて、いつの間にか子どもの成長さえ妨げている親。例えば、平和を願うばかりに、憲法9条を守りさえすれば平和を守れると考えるようになっていく人々。例えば、安定した生活を望むばかりに景気の回復を願い、そのために企業の生き残りを優先してそこで働く人々を見捨てていく社会。例えば良い教育を与えるために存在する学校が、いつの間にかその学校の存続のために被教育者を利用している社会。国民のための政治が、政治のために国民を利用するようになった社会。

キリスト教、ユダヤ教、イスラム教がこぞって偶像崇拝を強く否定しているが、そこで本当に否定されているのは木彫りの十字架像や仏像とか、石のお地藏様とか、あるいは布と紙のお守りではないと思う。手段を目的にしてしまう傾向の強い我々人間の生き方に対する警告が偶像崇拝の否定の本意だと思う。この世に命と存在する意味を与えられている自分が、いつの間にか自分が生きる手段だったはずのことを、生きる目的としてしまうことこそが、否定されるべき偶像崇拝なのではないだろうか。そのことに気付くまで、本当の命の意味は見えてこない。

こう言う私も、自分の命は愛おしい。だからこそ、この命を何時差し出しても悔いの無い大切なものがあることを、何にも代えがたい宝と意識し続けていきたい。そういう生き方に徹することができたとき、死は敗北ではなく、勝利となる。その確信を持って生きていきたい。

■ 多文化交流 in マラン2009 ■

「今年が多文化交流 in マラン2009」は参加者こそ少なかったのですが、実に充実したプログラムとなり、多くの豊かな交流が出来ました。安中市原市学童クラブとの協働で、日本の小学生たちとマランの小学生たちとの絵手紙による交流計画も成功させることができました。マランのスタッフの皆様、パートナーの皆様、そして訪問した小学校、高等学校の皆さんに感謝・感謝です。特に、今年も全体をまとめていただいた菅ヶ谷マコさんに感謝します。プログラムの様子は、二人の参加者の感想文でお伝え致します。

心のつながったマランでの日々 —多文化交流 in Malang 2009

高崎市立経済大学1年 岩丸 愛

ホームシックになったらどうしよう・・・スラバヤ行きの飛行機のなかで色々考えたけど、インドネシアの人々と過ごしているうちに、そんな不安は吹き飛んでしまいました。

インドネシアでの思い出はどれも素晴らしいものだけれど、特に印象に残っているのは、ホームステイと海への小旅行です。

ホームステイでは、リアルにインドネシアの生活を体験するので、トイレや水浴びは大丈夫かな、と心配でした。しかし、緊張する私をホストファミリーはとても温かく迎えてくれて、ホッとしました。私は、“よし、せっかくきたのだから、インドネシアの人になりきってみよう！”と思い、食事の仕方や水浴びをみんなと同じようにさせてください、とお願いしました。日本との違いに戸惑うこともあったけれど、これもありだなと思うと、「オッケー、大丈夫だよ。」が口癖になっていました。ホームステイでの2日間で、日本との違いを思いっきり楽しむことができました。私のことを優しく、温かく受け入れてくれたホストファミリーには感謝でいっぱいです。

次に、海への小旅行。インドネシアの友達と、貝を拾ったり、カニを捕まえたり、笑いすぎて頬が痛くなるほどでした。みんなとは3日前に会ったばかりなのに、ふと、昔から友達だったような気持ちになりました。うわべだけでない、心の交流ができた気がしてうれしかったです。

9日間でたくさんの思い出ができたけど、いつも浮かんでくるのは、インドネシアの人々の優しい笑顔です。インドネシアの友達、家族はどんな時もニコニコと接してくれました。みんなの笑顔のおかげで今ではインドネシアが大好きです。

たくさんの素敵な人々に出会えて、本当に幸せな時間を過ごすことができました。こんな交流が続いたら、平和な世界もきっと実現できるはず。「多文化交流 in Malang」に参加できて、本当に良かった！！



冷泉公裕 セカンドアルバム発売記念ライブin安中

「久しぶりに冷泉さんの歌を聞きたい。」「一度安中で聞いてみたい。」
そんな思いで計画した安中の喫茶店でのライブです。高崎からも近いです。
定員は30名。申し込みが定員を超えたら締切ます。お急ぎ下さい！

日時：2009年10月29日（木）開場：午後6時30分 開演：午後7時～9時
会場：喫茶店 めりっとうず 〒379-0115 安中市中宿 591-5
会費：4,000円 手作りケーキとコーヒー（紅茶）付き！
定員：申し込み順30名まで。申し込みは下記連絡先まで。（同封の振込用紙で4,000円を同封の振込用紙でお振込下さっても結構です。定員を超えた場合は全額返金させていただきます。）
主催：NPO法人国際比較文化研究所 〒379-0124 安中市鷺宮 3413-3
連絡先：研究所の太田まで（090-1667-5474 totatakao@yahoo.co.jp）
振込先：郵便振込 加入者名：国際比較文化研究所 口座番号：00510-1-61974

インドネシア闘病記

群馬県立女子大学 4年 中村さよ

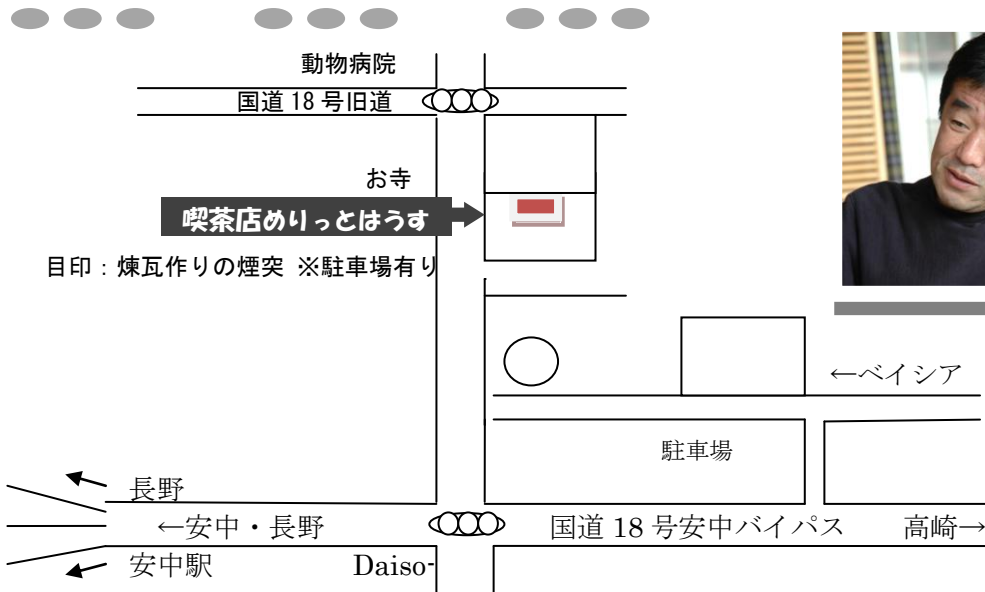
8月14日未明、ブラウイジャヤ大学のゲストハウスで、私は突然の腹痛に襲われた。12日にマランに到着してから2日。まだやりたいこともほとんどやっていない。ここで負けるわけにはいかない。必死で耐えるも、病状は悪化するばかり。ついに夜が明け、私はその日のスケジュールを全てキャンセルし、近くの病院へ運ばれることとなった。

診断の結果判明した病名は“胃酸過多”。慣れない地の慣れない食事と、持病の腹痛のため服用していた鎮痛剤が、どうやらかなりの負担だったようだ。現地人と間違われ、インドネシア語の説明を受けて閉口したりもしたが、パートナーや友達に助けられ、優しい先生にも出会えて、良い(?)病院通いとなった。しかし病院を出た後も腹痛はおさまらず、当時の写真を見ると全て顔が引きつっている。全てを「記念」にしようと、病気の私をも撮影する彼らから、インドネシアの人々の写真好きな性格を垣間見た気がした。

魔の14日から約3日間、私は薬を飲みながら、ゲストハウスの一室でひたすら眠る生活を送るはめになった。その痛みは、まるで陣痛のように定期的にやってくる。痛みがくるとただ歯を食いしばり体内での内乱がおさまるのを待つみなので、とてもエネルギーを消耗する。もともと体力のない私の身体はそのエネルギー消費に耐え切れず、一日のほとんどを意識なしの状態でも過ごした。それでも、目を覚ませば必ずインドネシア人のスタッフや友達の誰かがベッドのそばにいてくれて、ご飯を食べさせてくれたり、薬の準備をしてくれたり、飲み物を用意してくれたり、私が体験できなかったその日の活動を詳しく話してくれたりした。皆が海へ小旅行に行った日は、たくさんの友達が貝殻やおみやげを持ってお見舞いに来てくれた。病床に臥して、ここまで人のぬくもりを感じたことはない。本来ならばあまり接する時間のない他の参加者のパートナーたちも毎日お見舞いに来てくれて、腹痛がおさまれば外出できるようになるまでには、皆と仲良しになっていた。怪我の功名とはこのことか。

8月17日、友達のひとりが元気になった私をブラウイジャヤ大学で一番高い建物の屋上へ連れて行ってくれた。そこから見た景色は壮大で、所狭しと並ぶ家々にマランの人々のあたたかさを感じて、私は、流れる涙を止めることができなかった。感極まって号泣する私を抱きしめてくれた友達のぬくもりを感じながら、「来年もう一度戻ってこよう」と切に決意した。

最初から最後までまわりの人々に多大な迷惑をかける旅となってしまったが、今ふり返ると、楽しかった思い出ばかりが心に浮かぶ。マランにいるたくさんの“お母さん”や“お兄ちゃん・お姉ちゃん”や“妹たち”に、今度は病気のない健康な身体で来年また会いに行きたい。



● 冷泉公裕 ●

一俳優として—

大河ドラマでは「風林火山」で群馬の長源寺住職を演じる。来春公開の角川映画『人間失格』など多数に出演。

一歌手として—

冷泉風ライブを1970年代から展開。2006年のアルバム「Bom Dia!! 諸国漫遊」に続きこの秋、セカンド・アルバム「眠らぬ愛へのラブレター」が完成しました。今回はその記念ライブです！

Manapar 通信

MANAPAL by 国際比較文化研究所 〒379-0133群馬県安中市原市3-4-8 TEL/FAX:027-386-8499 MAIL:manapar@auone.jp

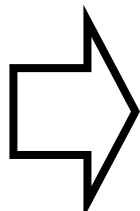
マナパルは、「地域社会」と「子どもたち」の健やかな成長を願い、国際比較文化研究所が設立した多目的教育施設です。

マナパル START しました!

お陰様で2009年10月1日より、マナパルは仮始動致しました☆



BEFORE



AFTER



お気軽にお立ち寄り下さい!

本当にたくさんの方々にご協力頂き、マナパルのDIYリフォーム・内装に関してはほぼ終了し、10月1日に仮始動を致しました!この場を借りて改めて、心よりお礼申し上げます。また、準備段階においてマナパルへご寄付頂きました森泉先生、渡部様、村井田様、本当にありがとうございました。大きな支えと勇気を頂きました。

(注: 渡部様、村井田様からは9月にご寄付を頂きました故、寄付報告は次号の記載となります。)

マナパルリフォーム及び設立準備協力者一覧(五〇音順)

青木正紀君、青島真一様(高崎塗装工業所:外壁塗装)、飯野保男様(丸保土建:フェンス解体他)、小野塚知子さん、家庭教育カウンセリング専門講座受講者の皆様、桑原周太郎くん、小坂橋紹晃君(奥様・ヒロト君)、櫻井伸治様ご家族様(NPO法人手をさしのべて)、櫻井三重様(アトス不動産)、佐藤レイさん、須賀愛沙さん、篠田亮輔君、荘林高人君、高木宝君、高野領翼君(ロゴデザイン)(志穂さん・すずちゃん)、高野酒店様、土屋剛君、原市学童クラブの皆様、土田高裕様(あんチョコ)、松本英子様(ぐんま経済新聞) <中央高等専門学院卒業生・在校生>新井終葉莉さん、宇野博之君、生方智大君、大槻幸さんとその友人たち、狩野亮太君、坂口優希さん、津久井理沙さん、富沢守登君(スグル君)、中嶋淳君、松田由佳さん、松原雄斗君、松原君のお母様、丸山史也君、宮田翔太君、吉田美貴さん、米田美紀さん

言葉では言い尽くせないほどの感謝の気持ちです。本当にありがとうございました!

引き続き温かいご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

マナパル英語教室 第1期生の募集を開始しました!



※広告掲載用イメージ写真は、安中市原市学童クラブとその児童にご協力頂きました。

ミニパンフレットも出来上がり(同封させていただきます!）、9月25日には、安中市の広報誌「あんチョコ」様にご挨拶がわりの広告も掲載させて頂き、まだ数名ではありますが、中高生たちが第1期生としてすでにマナパルに通って来ています!



まなばる君デザイン
byまあやん(原市小学校)

★★★今後の展望★★★

小規模な英語教室からスタートしますが、より幅広い英語学習や国際理解・他分野の学習支援・不登校支援・ニート支援など教育的ニーズに応えていける施設として成長していくのが目標です。ゆくゆくは職員・講師・ボランティア等人員を募り、活動範囲を広げていきたいと考えています。つきましては、教育に興味のある方や講師の出来る方、ボランティア希望の方、そしてなによりマナパルの活動に興味を持って下さった方は、お気軽にご連絡下さい!

★★★マナパルへのご寄付について★★★

格差社会と言われる昨今において、内容のある教育や支援をなるべく低料金で提供し、より多くの皆様に学習と成長の機会を与えられる施設でありたい。それがマナパル設立の主旨です。皆様からのご寄付は、先ず設備投資や教材購入等の運営資金として、ゆくゆくは子どもたちへの奨学金として、大切に大切にに使わせて頂きたいと存じます。マナパルの活動をお支え頂ける方は、同封の研究所宛振込用紙に「マナパル指定寄付」と明記の上、お振込み下さい。皆様の温かいご協力に心より感謝致します。

(他事業へのご寄付同様、決してご寄付を強要するものではありません。ご了承下さい!)



「日本人の心性を探る ～雅楽を通して～」

講師 京都ゑびす神社第37代神主 中川久公（なかがわ ひさただ）氏



9月19日に昭和庁舎で当研究所とNPO法人スピリットネットワークぐんまの共済で開催された講演と演奏の午後は、60名ほどの参加者が講師、中川久公（ひさただ）氏の神主姿でのお話と雅楽の演奏に熱中した。

参加者の感想から：◎「雅楽を通してのおはなしと演奏、大変興味深く拝聴しました。こんなにも身近に接することが出来、新しい発見と共に感動がありました。特に多くの日本語が雅楽の方からきているというのはびっくりでした。」◎「指揮者のいない雅楽を演奏するには『事の折り合いをつけながらすすめてはいけない』という所に、日本人の性を垣間見た気がしました。」◎「不思議な音ですね。和みます。ずーっと前から聞いていた音のような気がします。気持ちがおだやかになります。」

◎「このようなお話しを伺う機会をはじめてであり、とても興味深く、お話しを聞かせていただきました。これを機会に日本の文化のルーツにも関心を持ち学んでいきたいと思っています。グローバル化のもとにのみこまれてしまうことのないよう、伝統的な文化を大切に守っていかねばならないと思います。今日は本当にありがとうございました。」

IMS写真館

～いろいろな世界に、いろいろな人が、いろいろな気持ちで、ひとつの地球だあ～



美しい音色に魅せられて…



笑顔でお手伝い。@まなぼる



マランの自然に触れて…



マランの温情に触れて…



ガッツポーズでお手伝い。@まなぼる

☆インドネシアからの学生招聘事業☆

昨年は冬の最中にイチャさんとウィラスティさんの二名を招聘出来ましたが、今年の招聘はまだ実施出来ていません。今のところ一名を招聘出来そうなところまで皆さまからのご寄付を頂戴しております。このプロジェクトをお支え頂ける方は「招へい寄付」と明記の上お振込み下さい。

8月の「多文化交流 in マラン2008」でマランに行った折、私は招聘希望の学生たち一人一人と面接してきました。みんな素晴らしい学生たちでした。日本語も達者で、目的意識もはっきりしており、出来ることなら面接した学生全員を招聘したいという思いに駆られました。一人でも多くの若者に日本に来てもらうことが「多文化交流」プログラムをさらに充実させることだとも実感しております。

日本語を真剣に学んでいる彼らの一人でも多くに、日本に来て、日本文化を体験し、生きた日本語を学び、そして何より日本を好きになって帰って貰いたいと願っています。「多文化交流 in マラン」に参加した日本人が得たのと同じ愛着を持ってもらえるよう、出来るだけの努力をし、来年の一月には2名の若者を招聘する決意です。再度、皆様のご協力をお願いします。

☆会費納入とご寄付のお願い☆

振込用紙を同封しますので、研究所の活動をお支え下さい。年会費は個人が2000円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込みの方にはご寄付用の振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

「冷泉公裕セカンド・アルバム発表記念ライブ in 安中」にご来場希望の方も、この振込用紙で入場料4,000円をお振込み下さい。先着順ですので、定員をオーバーしてから申し込まれた方は速やかに全額お返しいたします。

会費・寄付(2009. 6. 22~2009. 8. 31)

敬称略、順不同で失礼します。なお、前回記載漏れがあり、別紙で挿入させていただいた方々のお名前を再度掲載させていただきます。またカッコ内はお振込みいただいた会費の年度です。二重にお振込みいただいた場合は次年度の会費としてお預かりしています。

<新入会員>

羽生基雄(09)、藤沢功(09)、二村撰三(09)、柴山享(09)、篠田恵子(09)

>>>新しい会員を与えられて喜んでます。

<会費>

阿部昭子(09)、村井田和夫(09)、神保松江(09)、佐俣英司(09)、森啓(09,10) 加藤修(09)、飯田俊(09)、吉田省史郎(09,10)、土屋操(09)、堀越敏男(09)、板橋満男(09)、永田強一(09)、福田則行(09)、川口知幸(09)、高橋美一(09,10)、岩井均(09)、白井義夫(09 退会)、鈴木瑠璃子(09)、濱名麻衣子(09)、丸山武子(09)、中村明佳(09)、大塚正子(09)、鈴木武仁(09)、櫻井なおみ(09)、朝倉照雅(09)、山崎利夫(09)、黒田絢(09,10,11)、斎藤恭子(09,10 退会)、石井七郎(09)、大江士(09)、熊倉浩靖(09)、近藤佳代(08,09)、新井隆(09)、木暮道子(09)、渡部恵知子(09)、坪井教由(09)、水口和子(08,09)、小野関千枝子(09 退会)、福田英作・洋子(09)、S.ジュティーン(09,10)、齊藤正典(09)、齊藤和子(09)、高山昇(09)、森泉宏昭(09)、関口澄(09)、太田敬雄(09)、徳増弘子(09)、山崎恵美子(09)、中易圭子(09)、間庭有美子((08,09)、川村十朱子((09)、正田智美(09,10)、今井睦子(09)、妹尾信孝(09)、金井美由紀(09)、上田暢子(09)、須藤勲子(09)、小坂景子(09)、伊藤優子(09)、長谷川昇(09)、村中祐生(09,10)、杉浦隆一(09)、中澤宏則(09)、梶原悦子(09)、加藤靖弘(09,10)、佐野啓予(09)、岩本謙(09)、青葉由香(09)、木村隆(09)、木村真理子(09)、木村真弓(09)、森泉英司(09)、古賀元章(09 退会)、伊賀三江(09)、森啓(10)、高山有紀(09)、佐藤直樹(09)

>>>会費納入、有難うございました。研究所の活動を支え続けていただきありがたく感謝しております。研究所は皆さまのための研究所ですから、大いに活用していただけるよう頑張ります。皆様のご提案、ご協力を合わせてお願いします。

<寄付一般>

村井田和夫、吉田省史郎、川口知幸、白井善夫、山田美和子、山村日出夫、大江士、鳴海真澄、福田英作・洋子、間庭有美子、遠間徹也、佐野啓予、岩本謙、正田智美、村中祐生(x2)、木村真弓

>>>ありがとうございます。大切に生かさせていただきます。

<「インドネシアより招聘」指定寄付>

阿部昭子、堀越敏男、板橋満男、永田強一、森泉英司、木暮道子、坪井教由、太田敬雄

>>>(8月31日現在計:296,330円。のご協力をいただいています。1人分強の金額です。年明けには学生を何とか2~3人招聘したいと準備を進めています。お互いの文化理解と相互信頼の推進のために、皆様のさらなるご協力をお願いします。ホームステイなどの受け入れのご協力もよろしくお願いします。)

<マナパル 指定寄付>

森泉英司

>>>ありがとうございます。マナパル活動資金として大切にに使わせていただきます。

編集後記: ニューズレターの編集を自ら買って出たものの、マナパルの設立準備に追われ無休の日々(笑)、予定より発行が遅れました。編集も結局最後の装飾程度で、所長がそこまでの大部分を仕上げました。はい、頑張ります!(副所長)

<p>Newsletter 発行: 特定非営利活動法人国際比較文化研究所 事務所: 〒379-0124 群馬県安中市鷺宮3413-3 電話: 027-382-5998 FAX: 027-382-6393 e-mail: mtharunac@xp.wind.jp 郵便振込口座番号: 00510-0-61974 名称: 国際比較文化研究所</p>
